

そんなに大変な思いをして、不自由な身体で旅にでる必要があるのですか、そう問われることがあります。

健康者にとって今の時代に旅をすることなどできてあたり前ですから、そう思われても仕方ありません。

確かに外に出れば大変な思いをすることがあるのに、人はなぜ旅をしたくなるのか、その問いかけに思うのは、旅の起りかたその歴史です。

近代ツーリズムのはじまりは、英国のトーマス・クック社が工場労働者の休養として企画した団体旅行といわれ、いわば健康旅行が近代ツーリズムの起源です。産業革命によって工場が増え、そこで働く人もまた増えました。その多くは肉体労働者でキツイ、汚い、危険の3K仕事ばかりでした。ですから週末になるともらった給料を手に酒場へ繰り出し、大酒を飲んでストレスを発散させていました。その繰り返しでいたから、休みの翌日は欠勤者が絶えず、工場の



▲10年越しの夢。はじめての海外はシンガポール

体験 アナログ 誘う 幸せへ

仕事に大きな支障をきたしていました。そこで考えたのが、労働者を町の外へ連れ出し、気分転換をさせるリフレッシュ目的の観光旅行、余暇サービスだったのです。それまでは、王侯貴族の子女など、ごく一部の人に許された観光旅行が、大衆のものとなり、旅のスタイルが変化した時代です。

さらに遡ればエルサレムやメッカ、サンチアゴ・デ・コンポステラなど、聖地巡礼の旅は、今も伝わる人気の旅です。私も会ったことがありますが車いすを利用している方は多く、昔は這って行く人もいたそうです。

日本にもお伊勢参りや善光寺詣などで、信仰と深くつながる旅は受け継がれていて、四国お遍路はリタイアしたシニア世代に人気の旅です。

デジタル時代、バーチャル社会が広がるほど、対極にある旅は、リアルなアナログ体験として人を豊かさから幸せへと誘ってくれる人生に欠かせない存在なのだと思います。



介護旅行

SPIあ・える倶楽部社長
篠塚 恭一



1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立、ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長、NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長